



研究者名※	植田 瑞昌 UEDA Mizuyo	学位※	博士(工学)
所属※	家政学部 住居学科	職名※	助教
連絡先	uedami@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/uedami		
研究分野※	工学・複合領域		
研究キーワード※	計画論、福祉住環境、ユニバーサルデザイン、地域居住・まちづくり、子育て環境、地域施設、福祉用具・支援機器		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児のための自宅内排泄環境整備に関する家族向けアセスメントツール開発研究(科学研究費・研究活動スタート支援・研究代表者,2019~2020年度) ・障害児の成長と発達を促す効果的な動物園利用のためのガイドライン開発研究(公益財団法人小林製薬青い鳥財団・調査研究助成・研究代表者, 2022年~) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都 板橋区ユニバーサルデザインアドバイザー(2017年~) ・東京都 新宿区ユニバーサルデザインまちづくり相談員(2019年~) ・東京都 練馬区地域福祉計画推進委員会 福祉のまちづくり部会 副部会長(2020年~) ・日本リハビリテーション工学協会 理事(2019年~) ・日本福祉のまちづくり学会 子育て・育てまちづくり特別研究委員会 委員長(2015年~) ・日本福祉のまちづくり学会 関東甲信越支部 副支部長(2019年~) ・日本建築学会 ユーザーオリエンテッド・デザイン小委員会 委員(2020年~) ほか 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・日本福祉のまちづくり学会 学術賞 (2013年) ・第88回日本建築学会 関東支部研究発表会 優秀研究報告集 採用・掲載(2018年) ・第38回国立障害者リハビリテーションセンター業績発表会 優秀賞(2022年) ほか 		

研究領域	建築計画・生活科学・福祉工学	(SDGs)
研究テーマ※	障害のある子どもの成長と発達を促す生活環境整備	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 医療的ケアを必要とする子どもや重い障害のある子どもは、日常生活に多くの介助を必要とします。介助負担を軽減し、子どもの成長と発達を活かし促すための生活環境整備は重要となります。とくに排泄は生命維持の他に、生活リズムを整え、快・不快といった意思表示、排泄場所まで移動・移乗など子どもの成長や発達に欠かせない要素を必要とします。しかし、障害のある子どもの排泄環境を整える方法や意義といった情報は少なく、さまざまな理由からおむつに依存する傾向が高いことが分かってきました。そこで、障害のある子どもの排泄実態や排泄環境を調査・研究し、家族向けの自宅内排泄環境整備アセスメントツールを開発しました。</p> <p>【応用例、研究の展望】 本ツールは、子どもに合った排泄環境が俯瞰できるようになっており、家族への情報提供を行うと同時に気づきや発見を得たり、専門家(理学療法士や作業療法士、建築士等)へ相談の際に活用することを目指しています。今後は、ワークショップや勉強会を通して、情報提供・普及啓発活動を行っていく予定です。さらに、障害のある子どもの成長と発達を促すためには自宅内の生活環境を整えると同時に、外出機会を増やし屋外活動からえられる経験知を高めるための環境づくりも重要です。障害の有無にかかわらずすべての子どもの成長と発達を促す住まいづくりやまちづくりに寄与していきたいと思えます。</p> <p>【研究方法の特色】 障害のある子どもの成長と発達に伴う排泄環境や排泄状況の経年変化を把握しています。調査・研究には理学療法士や作業療法士の協力を得ています。(多職種連携)</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・植田瑞昌ほか, 住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン ~福祉用具・機器の選択から住まいの新築・改修まで~, 分担執筆, 2015年9月, 彰国社 ・植田瑞昌ほか, OT・PTのための住環境整備論 第3版, 分担執筆, 2021年12月, 三輪書店 他 	
共同研究・外部機関との連携への期待	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 外来研究員(2022年~)	

